

# 国際預金保険協会（IADI）2024年 年次コンファレンス

加藤金融担当大臣 挨拶

2024年11月14日（木）

皆様、おはようございます。金融担当大臣の加藤勝信です。本日は、IADIの年次総会に係るコンファレンスの開催にあたり、ご挨拶の機会を賜り、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

IADIの年次総会が日本で開催されるのは、2010年以来、実に14年ぶり2回目のことです。2010年の年次総会では58カ国・地域から約130名にご参加いただいたところ、今回は83カ国・地域から約260名にご参加いただけると聞いております。金融システムのグローバル化が進む中で、これだけ多数の預金保険機関の方々が一同に会し、預金保険制度や破綻処理制度について対面で意見交換する機会を持つことは、大変意義深いことと思います。

日本において今回、IADIの年次総会をはじめ、世界の預金保険機関にとって重要な会合が開催され、ホスト国

の金融担当大臣として多くの皆様をお迎えすることができたことを大変喜ばしく思っています。

さて、預金保険制度は金融セーフティネットの中核をなす、信用秩序の維持に不可欠な制度であり、現在では多くの国や地域で導入されています。もっとも、その歴史は比較的新しく、世界で初めて預金保険制度が導入された米国では1933年にFDIC（連邦預金保険公社）が設立されていますが、日本で預金保険機構が設立されたのは1971年であり、また、ほとんどの国や地域では1980年代以降に制度が導入されています。

他方、多くの国や地域で預金保険制度の導入が進んだ1990年代になっても、預金保険制度に関する国際基準やガイダンスは存在しておらず、それぞれの国や地域の預金保険機関が個別に情報・知識の交換や国際協力を行っている状態でした。

こうした背景の下、国際的な枠組みを求める声が強まり、預金保険分野における国際協力の強化を通じて、金融システムの安定に貢献することや、広範な情報共有や

国際交流、研究活動を促すことを目的として、2002年に IADI が設立されたと承知しています。設立以降、IADI は、預金保険制度の課題や実効性の向上等に関するセミナーの開催、研究活動を行うとともに、預金保険制度に関する国際的な基準づくりにも深く関わってこられるなど、大きな役割を果たすとともに、様々な成果を上げてこられました。

その成果の中で特筆すべきは、BCBS（バーゼル銀行監督委員会）と共同で作成し、2009年6月に公表された「実効的な預金保険制度のためのコアとなる諸原則」、いわゆる「コア・プリンシプル」です。

「コア・プリンシプル」は、2011年にはFSB（金融安定理事会）から金融システムの安定化のために不可欠な国際基準のひとつとして認められ、現在、IMF（国際通貨基金）、世界銀行が実施している金融セクター評価プログラムでも評価基準として利用されています。

この「コア・プリンシプル」が公表されて以降も、金融

危機等を受けて、破綻処理制度について新しい課題が認識され、見直しが行われてきています。

例えば、2000年代の世界的な金融危機を踏まえ、主要国では、システム上重要な金融機関に関する破綻処理法制の整備が行われました。わが国でも2013年に預金保険法の改正を行いました。

さらに、直近では、2023年春に発生した米国でのシリコンバレー銀行等の破綻が、破綻処理制度に新たな課題を投げかけました。

シリコンバレー銀行等の破綻については、その後に行われた分析の結果、以下のような特徴が認められました。

第一は、昨今のSNS等のソーシャルメディアの発達により、従来よりもはるかに容易に幅広い先に対して情報が迅速に伝達されるようになったことです。

第二は、インターネット・バンキングの普及により、預金者は、金融機関の店頭で足を運ぶことなく、預金を他行へ移すことが容易となったことです。

こうした中で、現代では、過去に類を見ないスピード

での銀行取付けが生じ得ることが指摘されており、破綻処理制度は、こうした変化への対応も求められています。

さらに、金融市場は、クロスボーダー取引の拡大に伴い、局所的な混乱がタイムゾーンや通貨を問わず世界中に伝播し得るなど、世界は同時的かつ相互に影響し合っています。その意味で、それぞれの国や地域の預金保険機関間の連携を含め、規制当局や中央銀行も含めた金融セーフティネットの関係者による国際的な協調は、近年、益々重要なものとなっています。

今回の年次総会では、破綻処理制度を巡る状況の変化に対応するための「コア・プリンシプル」の改正案など、重要なテーマについて議論がされると承知しています。

冒頭にも申し上げたとおり、今回はこうした預金保険機関が一堂に会する貴重な機会ですので、自由闊達な意見交換が行われ、世界の金融システムの安定に資する場となることを期待したいと思います。

最後に、ここ日本は、世界的にも長い歴史を持つ国であり、様々な伝統文化がありますが、その中で最もポピュラーなものの1つが「和食文化」です。和食は、伝統的な日本料理でありつつ、時代毎の要素や環境変化、時には海外の影響なども取り入れて進化を遂げてきました。古くからの伝統と現代が融合し、新たな価値を生み出していることが、今日の日本の大きな魅力の1つです。本日のランチや夕食会では、刺身や寿司といった和食も提供されると聞いていますので、こうした日本の魅力を体感していただきたいと思います。

日本の預金保険機構がこのような素晴らしい場を提供することとなったことを誇りに思うと同時に、本コンファレンスが有意義なものとなることを祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

(以上)